

幕末と今日の日本



オリックス株式会社 取締役 兼
代表執行役会長・グループCEO

宮内 義彦氏
みやうち よしひこ

日本経済は1990年前後に頂点に達し、バブル崩壊を経て、当初は「失われた10年」と表現されていたのが既に「失われた20余年」となってしまう。政治もこの間政治改革のかけ声も虚しく政局・政略のバトルの場と化し国民をリードすることはなかった。国の根幹である経済はこの間世界で例を見ないデフレの進行、需給インバランスを食い止めるための国庫負担による需要創出、それに伴う財政悪化が進行した。成長戦略は小泉政権下で少し勢いは増したが、その後は顧みられることはなかった。方向性についても大きな政府による高福祉か、小さな政府のもとでの自己実現かといった対立軸、成長重視か結果平等か、所得格差についての評価、あるいは外交も米国重視か中国尊重かといった対立軸があり、全てがグラグラして一定しない、丁度幕末の歴史を思い出すような場面が多くある。

幕末は1853年に黒船渡来、日本中が大騒ぎになり、1868年に明治を迎えるまでの間、開国か攘夷か、佐幕か勤皇かの4つの対立軸に加えて公武合体の中間派もあった。昨日まで攘夷と言った人が開国の先頭に立つ、又佐幕派が公武合体、あるいは急激に勤皇に移るという何でもありの混迷が続いた。それ

をくぐり抜けて結局開国、明治新政府となった。

幕末はしかし明治という年号に入ったことで終わったわけではない。恐らくその終焉は明治10年の西南戦争終結によって迎えたのだろう。そして実質的な維新、本当の社会構造改革が行われたのは明治4〜6年にかけて、廃藩置県、学制公布、太陽暦採用、徴兵令公布、地租改定条例公布といった社会のあり方を変える制度変更が実施出来たからだ。社会を抜本的に変える仕組みが出来て、やっと明治維新が成立したのだと思う。長い混乱の中で溜まっていたマダマはほんの2、3年の間に社会の変革をもたらしただのが幕末の歴史ではなからうか。

幕末を今日の日本に置き換えるつもりもないが、ここ20数年の経済の停滞、政治の混乱を見ると、対立軸が幕末と同じように色々と変わり、一体、何処と何処とが対峙して、どこへ行こうとしているのかわからない事態になっている。そしてこの対立軸の交錯で政治も立ち行かなくなってきた。この混乱ぶりを見ると相当終わりは近いなど、明治4年は近いなど期待するのは早とちりであらうか。